

# 令和4年度 調査・研究委員会から

本校では、自然体験や集団生活等とおし、子どもたちに「生きる力」を育む自然学校の推進について研究を深め、自然学校のより一層の充実を図るため、「兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会」を置いています。

令和4・5年度の2年間は、次の2つのテーマについて調査・研究を行っています。

- テーマ1 「五感を使った自然にふれる体験活動」による児童の資質・能力への働きかけについて
- テーマ2 引率教員の自然学校への取組とふり返りに関する調査から、今後の自然学校を考える

今回は、本年度から新たに設定したテーマ2について、令和4年度調査・研究の概要と結果の一部を掲載します。各学校の自然学校の計画等の参考にさせていただければと思います。

## I 調査目的

自然学校で直接児童の指導をする教員に対して、自然学校への取組とふり返りに関する調査を実施し、学校の取組、児童の変容、教員の変化等を把握して、自然学校の実施期間と自然学校推進事業の充実度の関係について検証する。

## II 調査方法

### (1) 調査手順

本校利用校の教員に対して、自然学校実施後4週間以内にWEBによるアンケート

### (2) 調査対象

特別支援学級担任を含む5年生担任。回答者数は100人。(内訳 1泊：1人 2泊：33人 3泊：11人 4泊：55人)

## III 調査内容

学校のプログラムや取組、児童の変容、教員の変化等について質問をしましたが、今回は泊数との相関が顕著にあらわれた学校のプログラムや取組との関係についての内容を抜粋しました。各学校のプログラムや取組と泊数との関係を検証するため、勤務校の自然学校の泊数が【1泊・2泊】の回答者集団と【3泊・4泊】の回答者集団とを比較して考察しました。

## IV 調査結果〈抜粋〉

学校のプログラムや取組との関係

〈質問〉 自然学校をとおして、次のア〜カの取組やプログラムをどの程度実施することができましたか。あてはまるものを1つお選びください。

〈結果〉

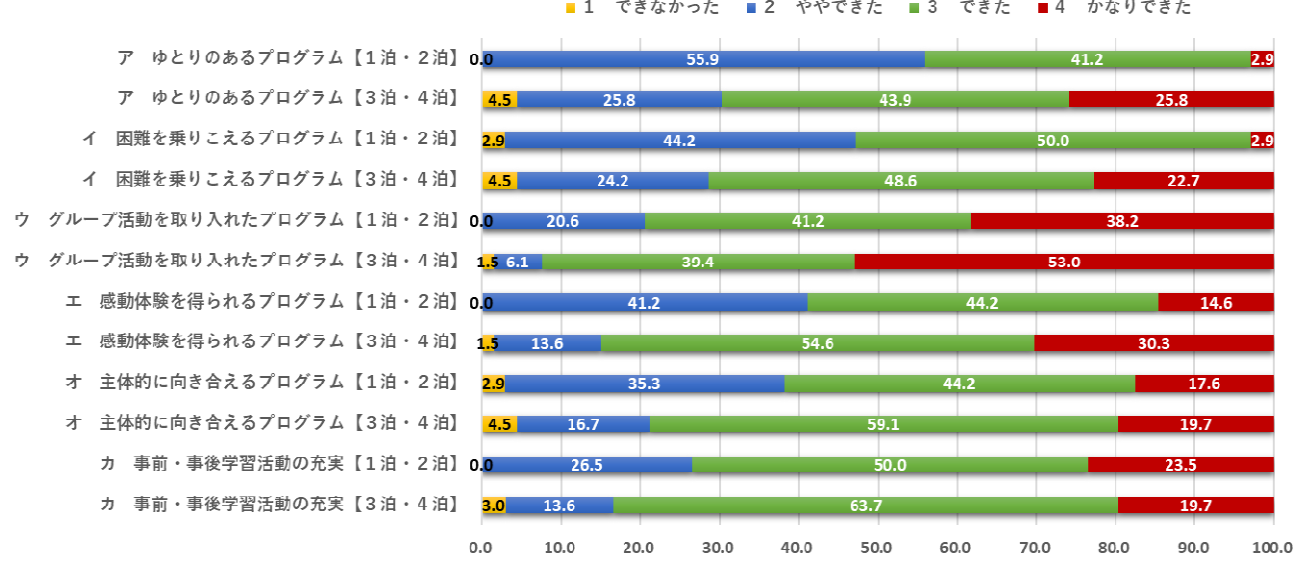


図 プログラム、取組の実施 (％)

この結果から、泊数が多いほど、児童の実態、自然学校のねらいに沿った多様なアクティビティ等を取り入れたプログラムを構成し、活動することができています。また、「グループ活動を取り入れたプログラム」「事前・事後学習活動の充実」については、【1泊・2泊】【3泊・4泊】の回答者集団ともに実施率の高い結果となりました。達成感や自己有用感を高めるための学習活動の工夫としてのグループ活動、事前・事後学習活動の大切さが浸透してきた結果であると考えられます。

新型コロナウイルス感染拡大防止等の理由により、期間を短縮して自然学校を実施せざるを得なくなってから3年が経ちました。4泊5日の長期宿泊体験では、時間的な余裕をもつことができ、児童と教員がゆったりと関わる場面や、児童の主体的な活動を促す場面を設定することができます。その中で、児童についての新たな発見や、児童の実態に応じた実践的指導力の向上など、児童だけでなく、教員としてのやりがいや成長を感じることを期待しています。利用校のみならずにはアンケートへの回答等、多くのご協力をいただきました。ありがとうございました。